

第2章 うるま市民の現状と健康課題

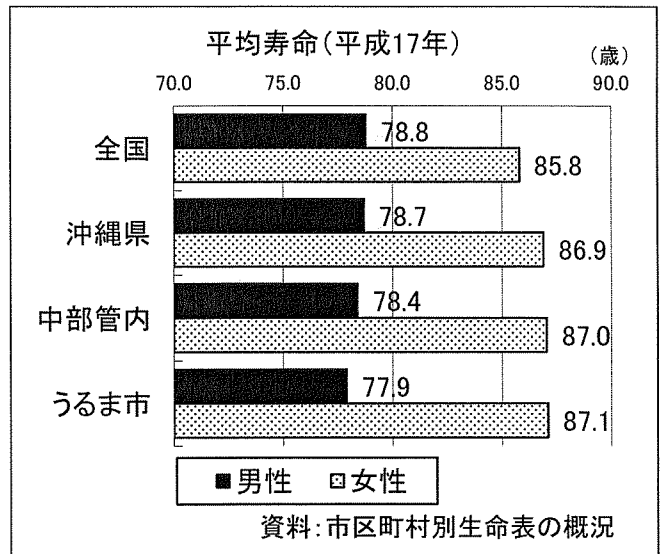
1. 平均寿命と死亡原因
2. 主な生活習慣病にかかる医療状況
3. ライフステージ別健康の現状と課題

第2章 うるま市民の現状と健康課題

1. 平均寿命と死亡原因

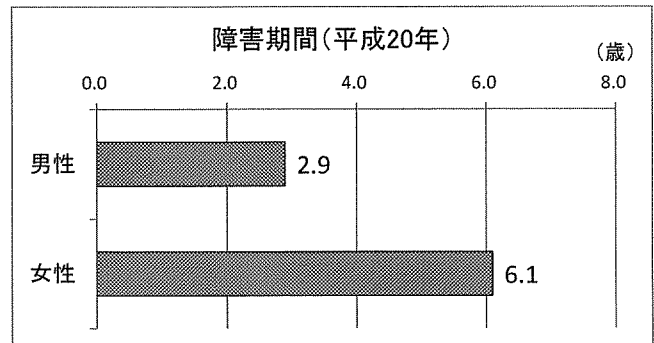
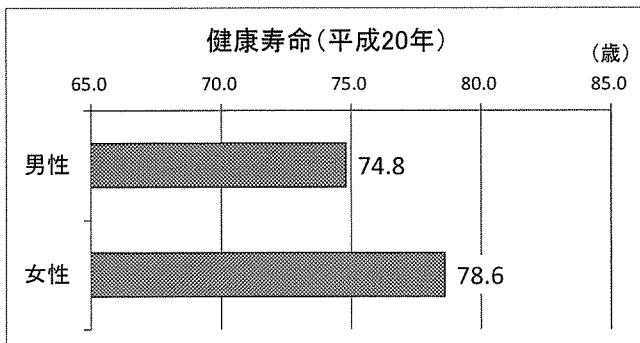
(1) 平均寿命

平成17年の市区町村生命表の概況における、うるま市の男性の平均寿命は77.9歳、女性の平均寿命は87.1歳で、女性の方が9.2歳上回っています。男性の平均寿命は、全国、沖縄県、中部保健所管内の市町村平均よりも短くなっていますが、女性は他と比較して最も長くなっています。



(2) 健康寿命(認知症や寝たきりにならない状態で生活ができる期間)

うるま市の健康寿命は、男性74.8歳、女性78.6歳で、男性よりも女性が3.8歳長くなっています。障害期間は、男性2.9歳、女性6.1歳で、男性より女性が2倍長くなっています。



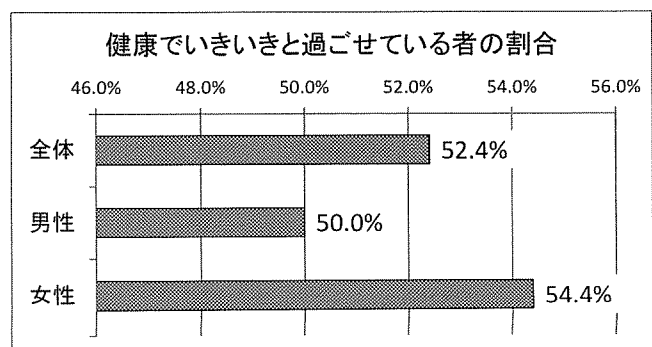
※H17年～21年死亡数と平成19年の住民基本台帳の人口で算出

資料: 「性・死因・年齢階級別死亡数」中部福祉保健所より

「うるま市人口」住民基本台帳より 「性・年齢・介護度別介護保険認定者数」介護長寿課より

(3) 健康でいきいきと過ごせている者の割合(アンケート)

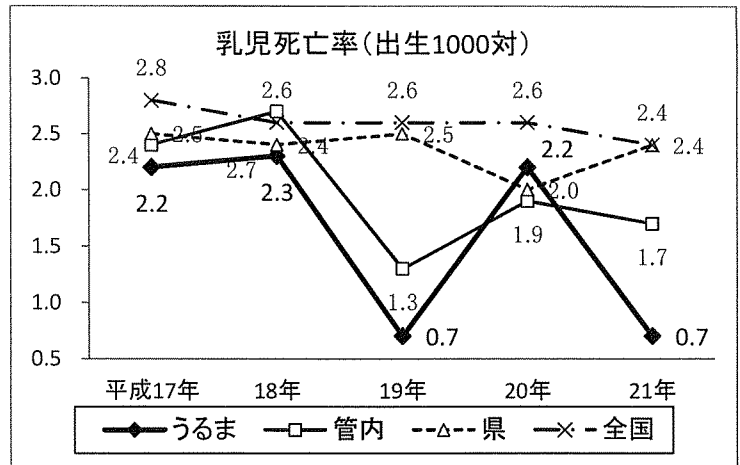
アンケートに基づく健康でいきいきと過ごせている者の割合は、全体で52.4%、男女別にみると男性(50.0%)より女性(54.4%)が高くなっています。



(4) 死亡状況

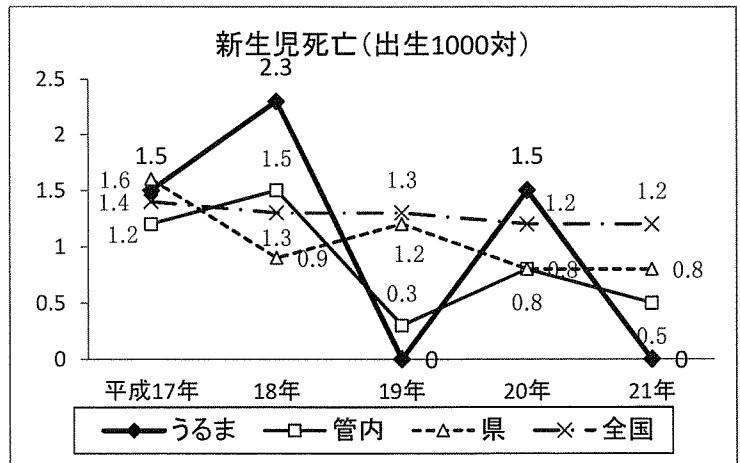
①乳児死亡率

うるま市の乳児死亡率は、平成17年以降全国及び県、管内に比べ下回り、平成21年は0.7%となっています。



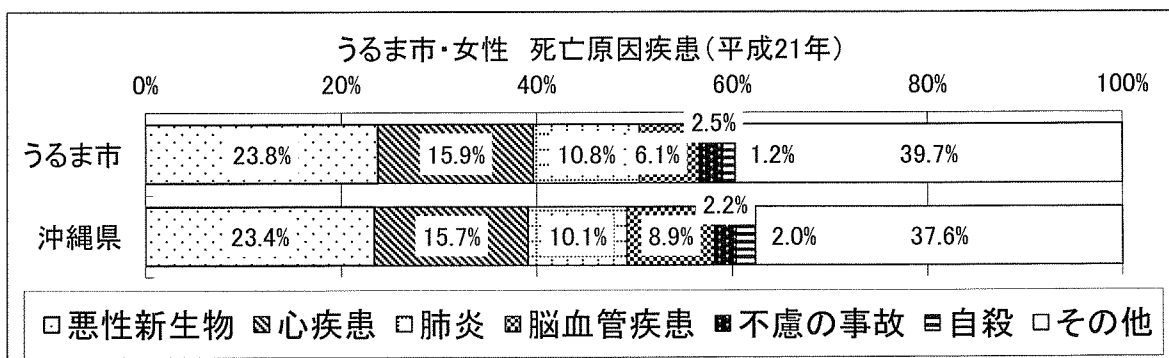
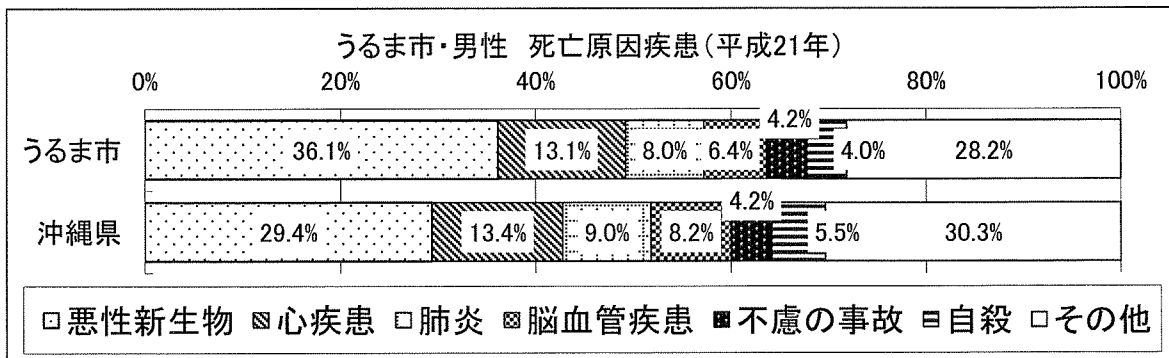
②新生児死亡

うるま市の新生児死亡率は毎年ばらつきがあり、平成19年と平成21年に死亡はみられません。



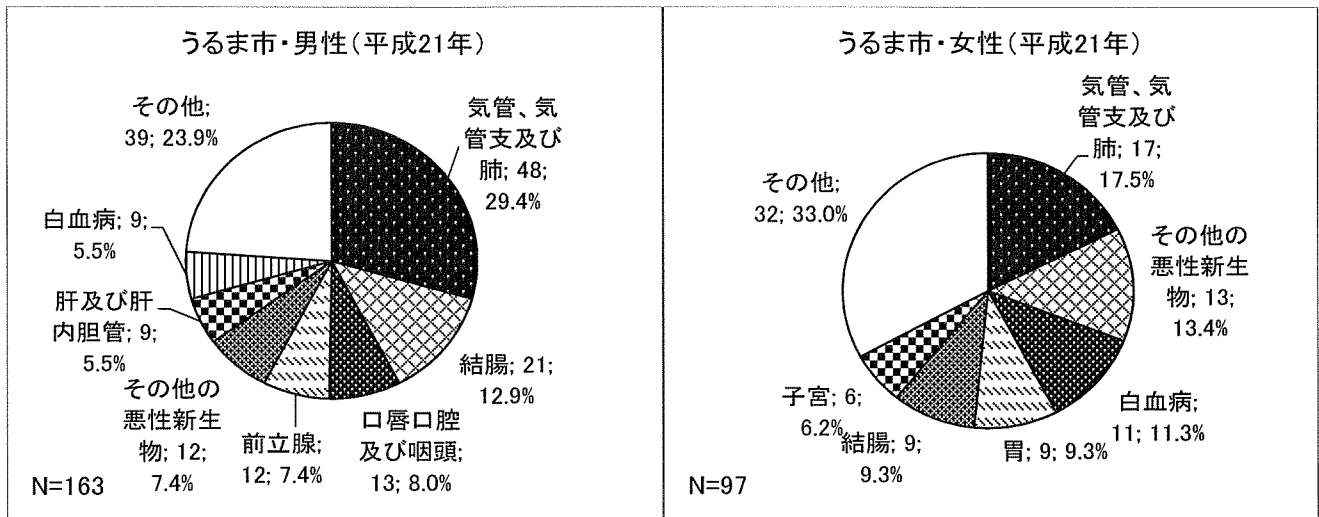
③死亡原因疾患

死亡原因疾患は、男女とも第1位は「悪性新生物」、第2位は「心疾患」、第3位は「肺炎」、第4位は「脳血管疾患」となっており、沖縄県の死因順位と変わりません。男性の「悪性新生物」の割合が沖縄県よりも6.7ポイント高くなっています。



⑤悪性新生物の部位別内訳

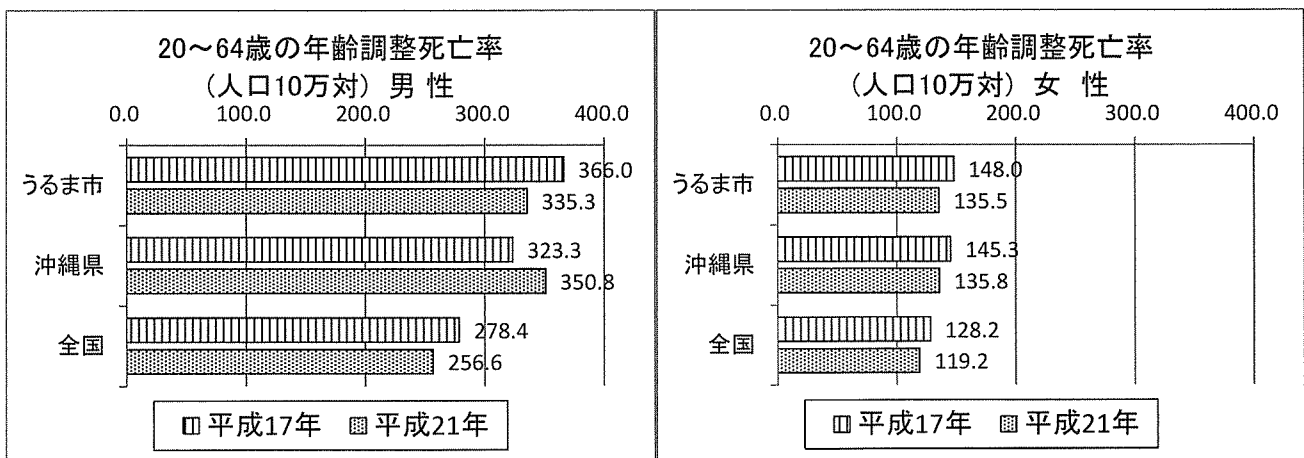
男女とも死亡原因の第1位を占める悪性新生物の内訳をみると、男性は「気管、気管支及び肺」が最も多く29.4%、次いで「結腸」が12.9%、「口唇口腔及び咽頭」が8.0%、「前立腺」が7.4%、「その他の悪性新生物」が7.4%、「肝及び肝内胆管」と「白血病」が5.5%となっています。女性では、「気管、気管支及び肺」が最も多く17.5%、「その他の悪性新生物」が13.4%、「白血病」が11.3%、「胃」が9.3%、「結腸」が9.3%、「子宮」が6.2%となっています。



⑥早世の状況

ア 20～64歳の年齢調整死亡率

うるま市の平成21年における20～64歳の年齢調整死亡率は、男女とも沖縄県よりも低いものの全国と比較して高く、男性で1.3倍、女性で1.14倍となっています。平成17年と比較すると男女ともに低下しています。



資料: 全国、沖縄県については沖縄県衛生環境研究法第44号『沖縄県における性・年齢・死因別死亡率の推移』より

「うるま市人口」うるま市住民基本台帳、「性・死因・年齢階級別死亡数」中部福祉保健所より

イ 20～64歳の主要死因順位（平成17年～21年）

20歳から64歳の主要死因の順位は、平成17年～21年の合計死亡数でみると、悪性新生物が最も多く、次に自殺、心疾患の順となっています。

20～64歳の主要死因順位

単位：人

	死因	死亡数(H17年～21年合計)					
		全体		男性		女性	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
1位	悪性新生物	290	31.5%	192	28.3%	98	40.2%
	うち肺がん	44	4.8%	34	5.0%	10	4.1%
2位	自殺	132	14.3%	106	15.6%	26	10.7%
3位	心疾患	77	8.4%	61	9.0%	16	6.6%
4位	脳血管疾患	67	7.3%	47	6.9%	20	8.2%
5位	不慮の事故	63	6.8%	49	7.2%	14	5.7%
6位	肝疾患	60	6.5%	65	9.6%	5	2.0%
	全死亡数	922		678		244	

資料：「性・死因・年齢階級別死亡数」中部福祉保健所より

ウ 20～64歳の人口10万対死亡率（平成17年～21年）

20歳から64歳の人口10万対死亡率をみると、男女総計で270.7となっています。男女で比較すると、男性が384.4、女性が148.6と男性が約2.5倍高い状況です。

20～64歳死亡率（平成17～21年）

人口10万対

疾患名	総計		男性		女性	
	H17年～21年死亡数平均	死亡率	H17年～21年死亡数平均	死亡率	H17年～21年死亡数平均	死亡率
悪性新生物	58	85.2	38.4	108.8	19.6	59.7
気管、気管支炎及び肺がん(再掲)	8.8	12.9	6.8	19.3	2.0	20.7
自殺	26.4	38.8	21.2	60.1	5.2	15.8
心疾患(高血圧性を除く)	15.4	22.6	12.2	34.6	3.2	9.7
急性心筋梗塞(再掲)	7.2	10.6	5.8	16.4	1.4	4.3
脳血管疾患	13.4	19.7	9.4	26.6	4.0	12.2
脳内出血(再掲)	7.2	10.6	5.6	15.9	2.2	6.7
全死因	184.4	270.7	135.6	384.4	48.8	148.6

資料：「性・死因・年齢階級別死亡数」中部福祉保健所、「うるま市人口」住民基本台帳より

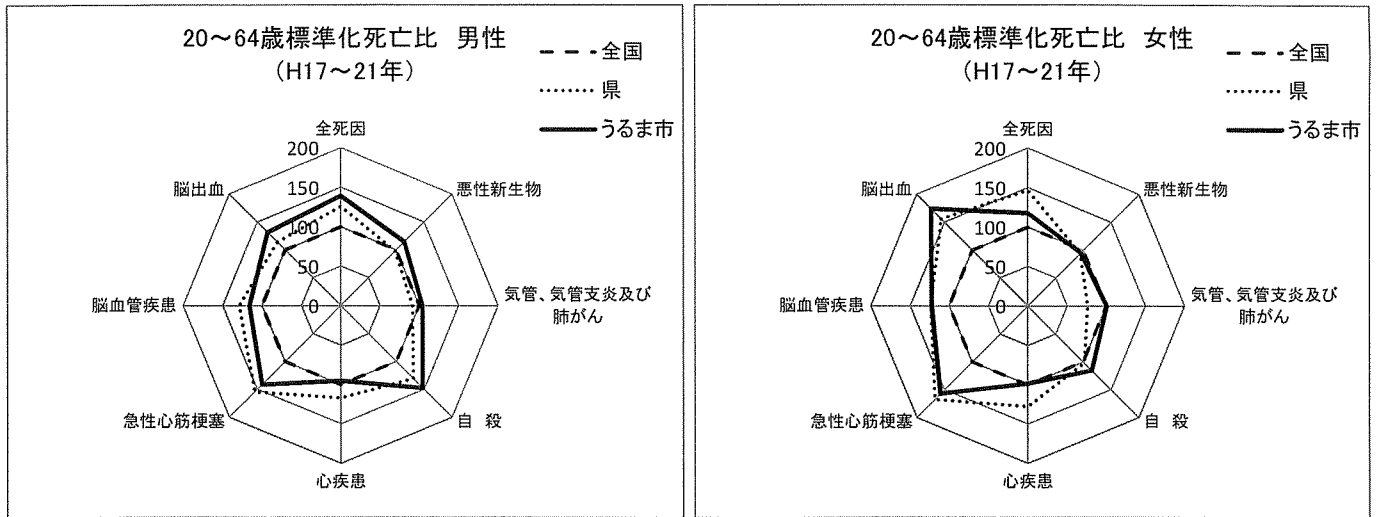
※H17年～21年死亡数の平均と平成19年の住民基本台帳の人口で算出

エ 20～64歳の標準化死亡比（平成17年～21年）

20歳から64歳の標準化死亡比は、男女ともにほとんどの死因において、全国を上回っています。

男性では、「全死因」で全国、沖縄県を上回っており、「悪性新生物」、「気管、気管支炎及び肺がん」、「脳出血」「自殺」が高い状況です。

女性は、「全死因」で県より下回っていますが、「気管、気管支炎及び肺がん」、「急性心筋梗塞」、「脳出血」、「自殺」が全国、県を上回っています。



20～64歳標準化死亡比(H17～21年)

疾患名	男性			女性		
	全国	県	うるま市	全国	県	うるま市
悪性新生物	100.0	98.1	114.7	100.0	94.4	95.1
気管、気管支炎及び肺がん(再掲)	100.0	91.5	104.2	100.0	76.1	100.7
自殺	100.0	130.9	147.6	100.0	101.9	115.4
心疾患	100.0	116.9	95.1	100.0	127.5	98.3
急性心筋梗塞(再掲)	100.0	154.4	141.2	100.0	167.5	157.2
脳血管疾患	100.0	128.9	115.9	100.0	123.5	122.3
脳出血(再掲)	100.0	114.1	131.4	100.0	155.9	174.5
全死因	100.0	126.0	139.2	100.0	146.8	117.7

資料:「国 死亡率(人口10万対), 死因・性・年齢階級別」国民衛生の動向より
 「沖縄県死因別、年齢階級死亡数」は厚生労働統計調査より
 「性・年齢階級・死因別死亡数」は中部福祉保健所より

※算出方法: H17年～21年死亡数の平均と平成17年国勢調査人口で算出

⑦ライフステージ別死亡順位

ライフステージ別の死亡順位をみると、死亡順位の1位は、乳幼児期(0～4歳)では「消化器系の先天奇形」、学童・思春期(5歳～19歳)以降は、「悪性新生物」となっています。

ライフステージ別死亡順位(平成19年～21年)

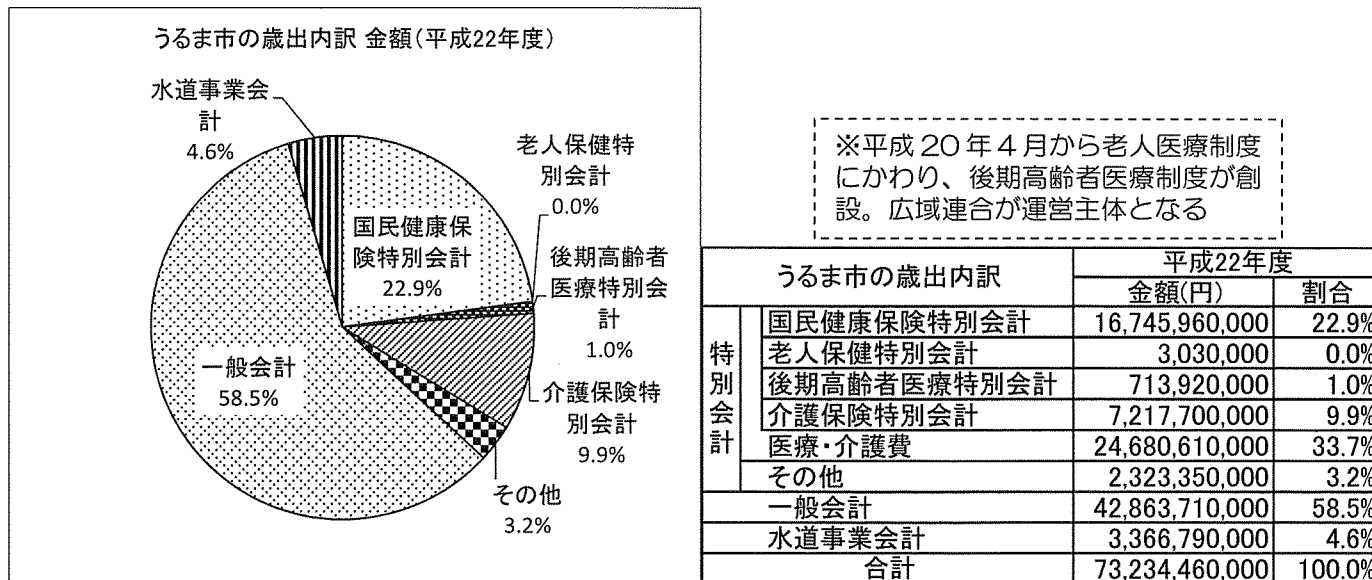
	死亡 総数	1位		2位		3位		4位		5位	
		原因名	件数	原因名	件数	原因名	件数	原因名	件数	原因名	件数
乳幼児期(0～4歳)	8	消化器系の先天奇形	3	・心疾患(高血圧性を除く) 性障害及び血液障害 神経系の先天奇形	3	・消化器系の先天奇形 ・その他の神経系の疾患	2	・胎児及び新生児の出血 ・乳幼児突然死症候群 ・神経系の疾患	1	各1	各1
学童・思春期(5歳～19歳)	8	悪性新生物	2	・自殺・循環器系の先天奇形	2	・心疾患(高血圧性を除く)	2	・他殺・肺炎・不慮の事故	2	各1	各1
青壮年期(20歳～64歳)	552	悪性新生物	182	自殺	65	心疾患(高血圧性を除く)	52	肝疾患	39	脳血管疾患	36
高齢期(65歳～)	1,986	悪性新生物	580	心疾患(高血圧性を除く)	308	肺炎	216	脳血管疾患	152	その他の呼吸器系の疾患	87
合計	2,554										

2. 主な生活習慣病にかかる医療状況

(1) 医療・介護費の歳出の内訳

平成22年度のうるま市の歳出内訳をみると、国民健康保険特別会計は全体の22.9%、老人医療・後期高齢者医療費特別会計は1.0%を占めています。

医療・介護費は合わせて約33.7%（約250億円）を占めています。



(2) 国民健康保険加入者の状況

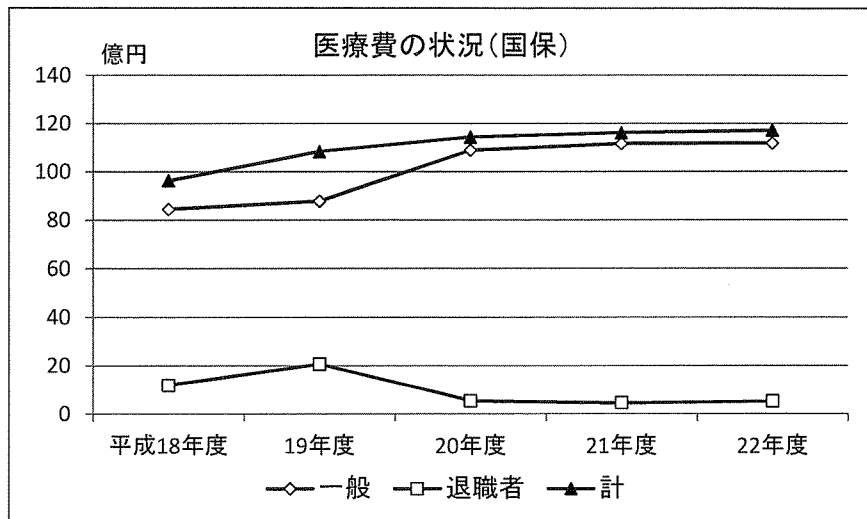
一般医療費は総額111億で一人当たりの医療費は23万円となっており、年々増化しています。

医療費の状況(国保分:一般・退職)

	一般	退職者	計
平成18年度	8,433,689,476	1,185,217,940	9,618,907,416
19年度	8,764,908,110	2,065,865,760	10,830,773,870
20年度	10,879,436,181	545,616,722	11,425,052,903
21年度	11,149,173,207	452,880,599	11,602,053,806
22年度	11,174,790,364	529,230,813	11,704,021,177

平成22年度被保険者1人あたり医療費

	被保険者数	1人あたり医療費
一般	48,586	230,000
退職者	1,769	299,170

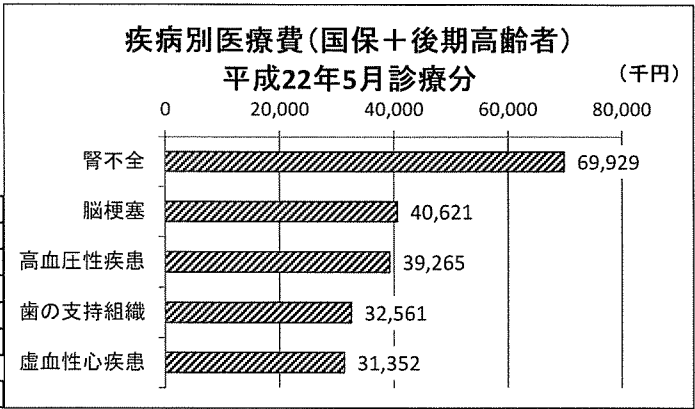


(3) 生活習慣病医療費の状況

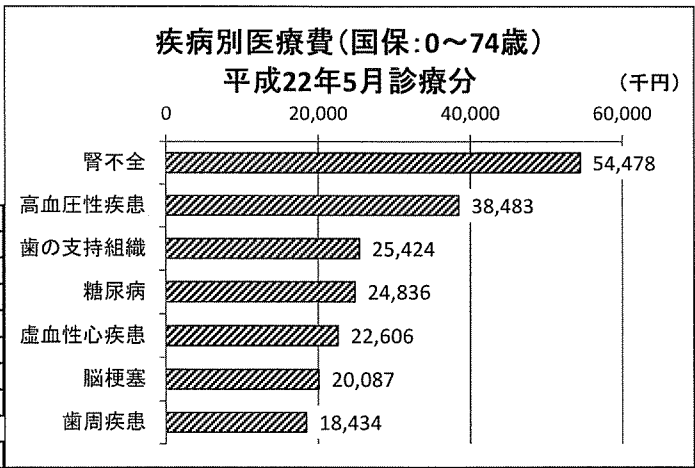
① 主な生活習慣病にかかる医療費

総医療費（国保と後期高齢）と国保医療費どちらも、主な生活習慣病にかかる医療費で最も高いのは、「腎不全」であり、「脳梗塞」「高血圧性疾患」「歯の支持組織」「虚血性心疾患」が上位となっています。

国保＋後期高齢者	
疾患名	医療費
腎不全	69,928,580
脳梗塞	40,620,680
高血圧性疾患	39,265,410
歯の支持組織	32,561,180
虚血性心疾患	31,351,590
医療費計	1,251,450,860



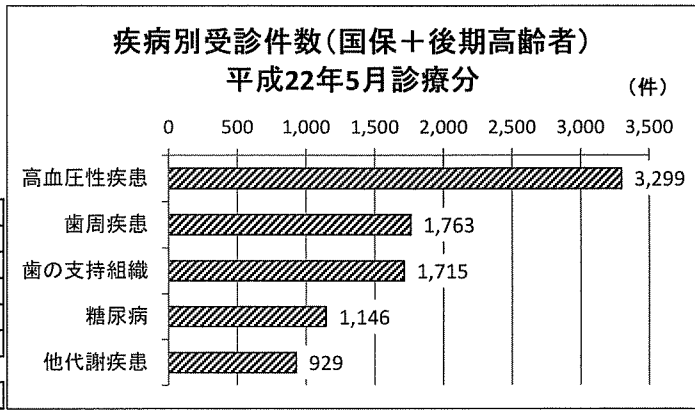
国保(0～74歳)	
疾患名	医療費
腎不全	54,477,870
高血圧性疾患	38,483,360
歯の支持組織	25,423,820
糖尿病	24,835,700
虚血性心疾患	22,605,830
脳梗塞	20,086,870
歯周疾患	18,433,790
医療費計	794,728,470



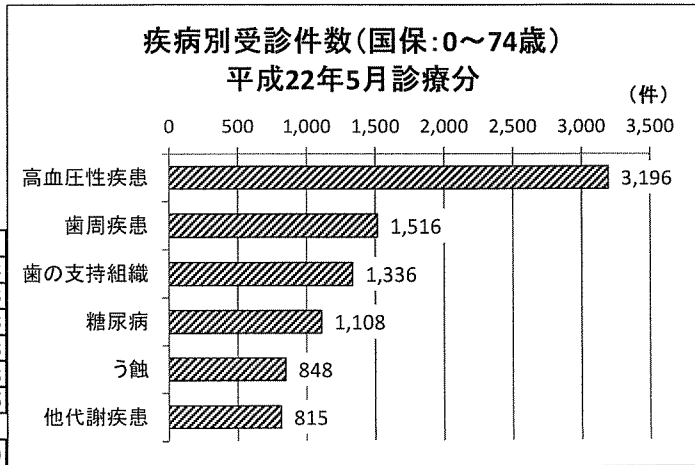
② 主な生活習慣病にかかる受診件数

総医療費（国保と後期高齢）と国保医療費どちらも、主な生活習慣病にかかる受診件数で最も高いのは、「高血圧性疾患」であり、「歯周疾患」「歯の支持組織」「糖尿病」「他代謝疾患（高脂血症等）」が上位となっています。

国保＋後期高齢者	
疾患名	件数
高血圧性疾患	3,299
歯周疾患	1,763
歯の支持組織	1,715
糖尿病	1,146
他代謝疾患	929
総件数	33,192



国保(0～74歳)	
疾患名	件数
高血圧性疾患	3,196
歯周疾患	1,516
歯の支持組織	1,336
糖尿病	1,108
う蝕	848
他代謝疾患	815
総件数	25,799



(4) ライフステージ別医療の状況

ライフステージ別受診件数をみると、乳幼児期の第1位は「喘息」、第2位は「その他上気道」第3位は「急性気管支炎」と続きます。学童・思春期の第1位は「う蝕」、第2位は「喘息」、第3位は「歯の支持組織」と続きます。青壮年期の第1位は「高血圧性疾患」、第2位は「歯周疾患」、第3位は「統合失調症」と続きます。高齢期の第1位は「その他の眼疾患」、第2位は「高血圧性疾患」、第3位は「歯周疾患」と続いています。

ライフステージ別受診件数順位（国民健康保険 平成22年5月診療分）

		乳幼児期 (0~4歳)	学童・思春期 (5歳~19歳)	青壮年期 (20歳~64歳)	高齢期 (65歳~)
第1位	疾患名	喘息	う蝕	高血圧性疾患	その他の眼疾患
	件数	337	318	1,293	860
	金額(円)	389,741	277,550	1,554,658	9,010,800
第2位	疾患名	その他上気道	喘息	歯周疾患	高血圧性疾患
	件数	254	255	845	1,684
	金額(円)	185,448	237,235	1,065,726	18,469,260
第3位	疾患名	急性気管支炎	歯の支持組織	統合失調症	歯周疾患
	件数	242	207	663	617
	金額(円)	272,833	229,500	6,916,324	7,557,570
第4位	疾患名	皮膚炎と湿疹	その他上気道	歯の支持組織	歯の支持組織
	件数	135	160	608	743
	金額(円)	71,983	81,169	1,241,120	15,025,800
第5位	疾患名	咽頭と扁桃炎	皮膚炎と湿疹	糖尿病	脊椎障害
	件数	85	161	439	756
	金額(円)	89,530	62,166	887,797	11,454,780
全数	件数	1,836	2,750	11,142	15,093
	金額(円)	43,844,970	38,657,720	355,678,990	698,040,030

ライフステージ別医療費順位（国民健康保険 平成22年5月診療分）

		乳幼児期 (0~4歳)	学童・思春期 (5歳~19歳)	青壮年期 (20歳~64歳)	高齢期 (65歳~)
第1位	疾患名	胎児発育障害	その他のがん	統合失調症	肺炎
	件数	25	22	663	126
	金額(円)	1,364,585	364,144	6,916,324	44,274,450
第2位	疾患名	その他心疾患	う蝕	腎不全	骨折
	件数	2	318	83	191
	金額(円)	412,155	277,550	2,817,415	41,085,040
第3位	疾患名	喘息	てんかん	高血圧性疾患	その他の損傷
	件数	337	23	1,293	268
	金額(円)	389,741	277,274	1,554,658	38,839,540
第4位	疾患名	肺炎	喘息	その他神経系	その他心疾患
	件数	31	255	177	229
	金額(円)	345,946	237,235	1,359,825	34,328,830
第5位	疾患名	急性気管支炎	歯の支持組織	歯の支持組織	腎不全
	件数	242	207	608	91
	金額(円)	272,833	229,500	1,241,120	31,708,110
全数	件数	1,836	2,750	11,142	15,093
	金額(円)	43,844,970	38,657,720	355,678,990	698,040,030

3. ライフステージ別健康の現状と課題

◆妊娠期

健康課題

- (1) 低出生体重児の割合が多い
- (2) 周産期死亡がある
- (3) 死産率が県や国に比べ多い
 - ① 自然死産がある
 - ② 人工死産が多い
- (4) 妊婦健康診査では、貧血、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病が見られる

保健行動の課題 ※保健行動とは・・・個人が健康を保持・増進したり、疾病を予防・早期発見するためにとる日常生活上の行動

<食・栄養>

- (1) 食習慣が不規則である
 - ① 朝食を毎日欠食する割合は 1.5 割である
 - ② 栄養バランスを考えて食べている妊婦は 4.5 割である

<歯>

- (1) 口腔内の管理が不十分である
 - ① 妊娠中に歯科受診をしている割合は低い
 - ② 毎食後に歯みがきを実施している妊婦は少ない

<運動・生活リズム>

- (1) 妊娠中に早寝・早起きを心がけた妊婦が少ない

<酒>

- (1) 飲酒している妊婦がいる

<たばこ>

- (1) 喫煙している妊婦がいる
 - ① 喫煙をする妊婦は、県より高い
 - ② パートナーが分煙している割合が低い(副流煙にさらされている)

<ゆとり>

- (1) 産前・産後に気分の落ち込みや気分が沈みがちな人がある

<その他>

- (1) 12 週以降の妊娠届出がみられる
- (2) 目標体重増加量を超えての出産が多い
- (3) 自己判断で妊婦健康診査の未受診や気になる症状の放置がある

◆乳幼児期

健康課題

- (1) 3歳児健康診査での肥満率は、県より高い
- (2) 3歳児のう蝕状況は、県より高い

保健行動の課題

<食・栄養>

- (1) 規則正しい食習慣が身につけていない子どもがいる
 - ① 乳児期の完全母乳栄養は3割である
 - ② 離乳食では月齢に合った食形態へ移行できていない乳児(10カ月)が6割いる
 - ③ 朝食を食べていない乳幼児がいる
 - ④ 栄養バランスを考えて食事を作らない保護者がいる

<歯>

- (1) 口腔内の管理が不十分である
 - ① おやつを決めていないが約3割
 - ② 定期的にフッ素塗布をしている割合が低い
 - ③ 1歳半児や3歳児で毎日仕上げみがきをしている子どもの割合が低い

<運動・生活リズム>

- (1) 生活リズムに問題のある子どもがいる
 - ① 8時以降起床する子どもや22時以降に就寝する子どもがいる
 - ② 毎日外遊びをしている割合が少ない
 - ③ 2時間以上、テレビを視聴している3歳児がおり、中には4時間以上の子どももいる

<酒・たばこ>

- (1) 副流煙にさらされている子どもがいる
 - ① 子どもを酒の席に同伴している親がいる
 - ② 乳幼児の保護者の喫煙率が高い。特に3歳児の母親の喫煙率が高い
 - ③ 受動喫煙に気をつけていない保護者がいる。
 - ④ 子どもに喫煙している姿を見せている乳幼児の保護者がいる

<ゆとり>

- (1) 子どもの良いところ、頑張っているところを見つけてほめることを意識していない保護者がいる。
- (2) 子育て支援を必要とする保護者がいる

<その他>

- (1) 乳幼児健康診査や予防接種を受けさせていない保護者がいる
- (2) 言語発達に問題のある子どもがいる
- (3) 皮膚疾患や呼吸器系疾患が多くみられる
- (4) 乳幼児の事故として、不慮の事故による骨折、頭蓋内損傷、熱傷がみられる

◆学童・思春期

健康課題

- (1) 小・中学生の肥満割合は、県に比べて高い
- (2) 小・中学生のう蝕は、県平均・国に比べて高い
- (3) 12歳児のDMFT(1人う蝕経験指数)が高い

保健行動の課題

<食・栄養>

- (1) 規則正しい食習慣が身につけていない
 - ① 学年が高くなるにつれて朝食欠食率が高い
 - ② 栄養バランスを考えて食べる割合は男女ともに低い(高校生)
 - ③ お菓子や甘い飲み物を1日2回以上とる者が多い
 - ④ 夕食後に毎日間食する者がいる(小・中学生)

<歯>

- (1) 口腔内の管理が不十分である
 - ① フッ素配合の歯みがき剤を使用している割合が低い(小・中学生)
 - ② 学校健康診査以外で年1回以上歯科検診を受けている者の割合が低く、未処置者が多い
 - ③ 毎食後の歯みがきの割合が低い

<運動・生活リズム>

- (1) 生活リズムに問題がある
 - ① 朝7時以降に起床、22時以降に就寝する者がいる(小・中学生)
 - ② 運動やスポーツを全くしない者がいる(小・中・高校生)
 - ③ テレビやゲーム時間が2時間以上の割合が高く、中には4時間以上の者もいる(小・中学生)

<酒・たばこ>

- (1) 飲酒や喫煙の問題がある
 - ① 飲酒経験や喫煙経験のある小・中・高校生がいる
 - ② 酒を飲んだきっかけは、「誘われた」「興味・好奇心」が多く、たばこを吸ったきっかけは、「無理やり吸わされた」「興味があった」「大人が吸っているのをみてかっこよく見えた」が多い
- (2) 薬物の問題もある。

<ゆとり(心の豊かさ)>

- (1) 自分の思っていることを伝えることができない者がいる
 - ① 自分の良いところ、自慢できるものがある割合が低い(小・中・高校生)
 - ② 悩んだときに相談相手がいなかったり悩みを相談できる場所を知らない者がいる(小・中・高校生)
- (2) 不登校児がおり、学年があがるにつれ増える

<その他>

- (1) 避妊方法の正しい知識をもたない高校生がいる
- (2) 10代の母親の割合が国、県より高い
- (3) 学校健康診査において、要医療者が受診につながりにくい
- (4) 事故による外傷の受診件数は、その他の外傷や骨折による受診が最も多く、頭蓋内損傷も各年齢で見られる

◆青壮年期

健康課題

- (1) 肥満者の割合が高い
- (2) 内臓脂肪症候群(メタリックシンドローム)の割合が高い
- (3) 高血糖・高脂血症・高血圧の割合が高い
- (4) 糖尿病による合併症(透析)の割合が高い
- (5) 60歳における24歯以上自分の歯を有する者の割合が低い

保健行動の課題

<食・栄養>

- (1) 食習慣が不規則になっている
 - ① 朝食欠食率が20代・30代で高い
 - ② 食事を適正量・バランスを考えてとっている者が少ない

<歯>

- (1) 口腔内の管理が不十分
 - ① 歯みがきを毎食後している割合が低い
 - ② 定期的に歯石除去・歯面部清掃を受けている60代の割合は、国と比較すると低い
 - ③ 歯間部清掃用具を使っている割合は、40代・50代を含め、全体的に国・県より低い

<運動>

- (1) 定期的に運動している者が少ない

<酒>

- (1) アルコール60g/日を超える多量飲酒者が多く、特に男性は全国・県を大きく上回っている

<たばこ>

- (1) 喫煙者が多い
 - ① 女性の喫煙率を国・県と比較すると高い
 - ② たばこを吸う姿を子供に見せないように気をつけている者が少ない

<ゆとり>

- (1) 悩みを相談出来る者がいないと答えた者の割合が、男性50代に高い
- (2) 平均睡眠時間が6時間未満と答えた者の割合が、県と比較しても高い
- (3) ストレスを感じた者の割合が、国・県と比較して高い

<その他>

- (1) 健(検)診受診率が低い
- (2) がん検診精密検査未受診者が約3割いる
- (3) 特定保健指導率が低い
- (4) 毎日体重を測る者が少ない

◆高齢期

健康課題

- (1)肥満者の割合が高い
- (2)内臓脂肪症候群(メタリックシンドローム)の割合が高い
- (3)高血糖・高脂血症・高血圧の割合が高い
- (4)糖尿病による合併症(透析)の割合が高い
- (5)介護認定者数の割合は、男性では循環器系、女性では筋骨格系が高い
- (6)80歳における20歯以上自分の歯を有する者の割合が低い

保健行動の課題

<食・栄養>

- (1)栄養バランスがくずれている
 - ①食事の適正量・バランスを考えている者が少ない

<歯>

- (1)口腔内の管理が不十分
 - ①歯みがきを毎食後行っている者の割合は低い
 - ②定期的に歯石除去・歯面部清掃を受けている60代の割合が低い
 - ③歯間部清掃用具を使っている割合は低い

<酒>

- (1)男性のアルコール60g/日を超える多量飲酒者が多い

<たばこ>

- (1)たばこを吸う姿を子どもに見せないように気をつけている者は少ない

<ゆとり>

- (1)ストレスを感じた者が多いが、悩みを相談できない者がいる
- (2)女性は睡眠時間が不足している者が多い傾向にある

<その他>

- (1)健(検)診受診率が低い
- (2)がん検診精密検査の未受診者が約2割いる
- (3)毎日体重を測る者が少ない